

## 01 畑野とまと

50歳 / トランス女性、バイセクシュアル  
ライター / トランスジェンダー活動家



## 問題は“LGBT”当事者のフォビア

中学時代、母親の洋服を拝借して女装するも、母親に見つかり封印。高校の頃、テレビで見たカール・セル麻紀のトランス話にときめく。20代半ばにパソコン通信で女装やニューハーフの姐さんと知り合い封印を解く。その後、ホルモンを打ち始め、徐々にトランスしていく。「トランスしている人、トランスしようとしている人がトランスジェンダー。それ以上でもそれ以下でもない。問題は“フォビア”。特に

“LGBT”当事者間に巣食うそれ。“LGBT”を一括りにして、身近な存在と訴える割には、各セクシュアリティ間のフォビアが根強い。この“LGBT”当事者間のフォビアに対して、少なくとも問題意識を持たないと、社会に対して差別するなって言えないよね」

1965年札幌生まれ。システムエンジニア等を経た後、20代後半にトランスを決意。その後、ニューハーフヘルス嬢に転身。アダルト誌ライター、AV女優等を経て、現在はパートナーの畑野ふらとまととゲーム攻略本等の記事を執筆。

## 02 DSKE

32歳 / ゲイ  
DJ



## セクシュアリティの壁のない自由なパーティーを

2005年、初めて訪れたベルリンのクラブシーンは衝撃だった。「オーナーやDJなど、そのメインストリームに、ゲイの存在が確固としてありました。お客さんも、ゲイやトランス、もちろんストレートもいて。その開放感にグッときました」。その後、ベルリンからDJを呼んだり、自身が訪れて現地のクラブで回す機会も得た。理想は「クラブの空間の中にセクシュアリティの壁のない、ベルリンのような

自由で平等なパーティー」だという。この4月、渋谷・道玄坂に誕生したクラブ〈コンタクト〉で、理想を実現すべく新しいパーティーをプロデュースする。その名も『motorpool』。また一つ、夢をカタチにする。

1983年茨城県生まれ。東京とベルリンをベースに活動するDJ。青山Maniac Loveのアフターアワーズで本格的にキャリアをスタートし、Panorama bar、HomopatikやSnax Club、欧州、アジア各国でプレイ。2016年6月に自身のNEW PARTY “motorpool” を始める。

## 03 浅沼智也

26歳 / FtMトランスジェンダー、バイセクシュアル  
看護師、心理カウンセラー



## 小さな身体に宿る、大きな野望

胸が膨らみ、月経も始まり…。第二次性徴のころから身体に強い違和感を覚え始めた。地方出身ゆえ情報は乏しく、誰にも相談できない。毎日ガムテープを巻いて胸をつぶした。高校に入ると違和感がさらに強くなった。そんなとき、高校の養護教諭が力になってくれた。希望が見えた。高校を卒業し、故郷を離れ、関西の看護系女子短大に入った。20歳からホルモン療法を始め、22歳のときにタイで性

別適合手術を受け、23歳で戸籍の性別を変更した。3年ほどで一気にトランスした。「医療機関を、LGBTをはじめ多様な人々が気軽に利用できる場所にしたい」。大きく見開いた目が、爛々と輝いた。Little guy, be ambitious!

1989年岡山県総社市生まれ。23歳で女性→男性へ戸籍変更。LGBT専門ナースコーチや不妊治療アドバイザーとしても活躍。GID(性同一性障害)学会、日本不妊カウンセリング学会所属。

## 04 鳩貝啓美

50歳 / レズビアン  
特定非営利活動法人レインボーコミュニティ  
coLLabo 代表理事



## 自分らしく、ありのままにこう！

小学5年から、同性を好きになる自分を意識した。中学、高校と進んでも、やはり女性ばかり好きになる。当時、書物で調べると「異常性愛」「思春期女子特有の一時的な同性愛的傾向」とあった。治そうと凄く努力した。でも疲れて諦めて、自身の性指向を受容し、28歳でコミュニティにたどり着いた。それから十数年。2009年にセクシュアルマイノリティ女性が集える“場”をと、coLLaboを立ち上げた。柱

は二つ、当事者向けのサポートと、社会に向けての働きかけ。「こういう活動って、何か特殊な能力が必要なわけではない。華々しさはなくても、個々の専門性を融合させたら、凄いことができるんじゃないかな」。その輝く瞳に、銜いはない。

1965年千葉県生まれ。95年からレズビアンサポートに関わる。現在、特定非営利活動法人レインボーコミュニティ coLLabo 代表理事。セクシュアルマイノリティの女性がセクシュアリティを隠さず生きられる社会を目指し活動している。